



## SCSI ターゲットの検出

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [SCSI ターゲットの検出, 1 ページ](#)

## SCSI ターゲットの検出

### SCSI LUN 検出に関する情報

SCSI ターゲットにはディスク、テープ、およびその他のストレージデバイスが含まれます。これらのターゲットは、ネーム サーバに論理ユニット番号 (LUN) を登録しません。

ネーム サーバには、次の理由により、LUN 情報が必要となります。

- NMS (Network Management System; ネットワーク管理システム) がアクセスできるように、LUN ストレージデバイス情報を表示するため。
- デバイスのキャパシティ、シリアル番号、およびデバイス ID 情報を表示するため。
- ネーム サーバにイニシエータおよびターゲット機能を登録するため。

SCSI LUN 検出機能には、ローカル ドメインコントローラ ファイバチャネルアドレスが使用されます。この機能はローカル ドメインコントローラをソース FC ID として使用し、SCSI デバイス上で SCSI INQUIRY、REPORT LUNS、および READ CAPACITY コマンドを実行します。

SCSI LUN 検出機能は、CLI (コマンドラインインターフェイス) または SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を通して、オンデマンドで開始されます。近接スイッチが Cisco Nexus 5000 シリーズに属する場合、この情報は近接スイッチとも同期されます。

### SCSI LUN 検出の開始について

SCSI LUN 検出はオンデマンドで実行されます。

ネーム サーバデータベース内の Nx ポートのうち、FC4 Type = SCSI\_FCP として登録されたものだけが検出されます。

## SCSI LUN 検出の開始

SCSI LUN 検出を開始する手順は、次のとおりです。

### 手順の概要

1. switch# **discover scsi-target** {**custom-list** | **local** | **remote** | **vsan vsan-id fcid fc-id**} **os** {**aix** | **hpux** | **linux** | **solaris** | **windows**} [**lun** | **target**]

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>discover scsi-target</b> { <b>custom-list</b>   <b>local</b>   <b>remote</b>   <b>vsan vsan-id fcid fc-id</b> } <b>os</b> { <b>aix</b>   <b>hpux</b>   <b>linux</b>   <b>solaris</b>   <b>windows</b> } [ <b>lun</b>   <b>target</b> ]	指定されたオペレーティング システム (OS) の SCSI ターゲットを検出します。

### SCSI LUN 検出を開始する例

次に、すべてのオペレーティング システム (OS) のローカル SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target local os all
discovery started
```

次に、AIX OS に割り当てられたリモート SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target remote os aix
discovery started
```

次に、VSAN (仮想 SAN) 1 および FC ID 0x9c03d6 に対応する SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
VSAN:      1 FCID: 0x9c03d6 PWWN: 00:00:00:00:00:00:00
  PRLI RSP: 0x01 SPARM: 0x0012
  SCSI TYPE: 0 NLUNS: 1
  Vendor: Company 4 Model: ST318203FC   Rev: 0004
  Other: 00:00:02:32:8b:00:50:0a
```

次に、Linux OS に割り当てられたカスタマイズ リストから SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target custom-list os linux
discovery started
```

## カスタマイズ検出の開始について

カスタマイズ検出は、検出を開始するように選択的に設定された VSAN とドメインのペアリストによって行われます。この検出を開始するには、`custom-list` オプションを使用します。ドメイン ID は 0 ~ 255 の数値（10 進数）、または 0x0 ~ 0xFF の数値（16 進数）です。

## カスタマイズ検出の開始

カスタマイズ検出を開始する手順は、次のとおりです。

### 手順の概要

1. `switch# discover custom-list add vsan vsan-id domain domain-id`
2. `switch# discover custom-list delete vsan vsan-id domain domain-id`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# discover custom-list add vsan vsan-id domain domain-id</code>	指定されたエントリをカスタム リストに追加します。
ステップ 2	<code>switch# discover custom-list delete vsan vsan-id domain domain-id</code>	指定されたドメイン ID をカスタム リストから削除します。

## SCSI LUN 情報の表示

検出結果を表示するには、`show scsi-target` および `show fcns database` コマンドを使用します。

次に、検出されたターゲットを表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target status
discovery completed
```



- (注) このコマンドを完了するには、数分間かかることがあります（特に、ファブリックが大規模である場合や、複数のデバイスの応答速度が遅い場合）。

次に、FCNS データベースを表示する例を示します。

```
switch# show fcns database
```

次に、SCSI ターゲット ディスクを表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target disk
```

次に、すべてのオペレーティング システムの検出済み LUN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target lun os all
```

次に、各オペレーティング システム（Windows、AIX、Solaris、Linux、または HPUX）に割り当てられたポート WWN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target pwn
```